

CASBEE® あいち

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

I使用評価ソフト: CASBEE-BD NC 2016(v3.0) AICHI

● 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カインズ岡崎美合店	階数	地上2階
建設地	愛知県岡崎市美合町字入込2-2-2、201、202、203、204、205、110-1、110-4、予定地1-10	構造	S造
用途地域	工業地域(用途地域を記入)	平均居住人員	1,800 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年9月2日
敷地面積	24,434 m ²	作成者	村手 基
建築面積	10,056 m ²	確認日	2025年9月2日
延床面積	10,438 m ²	確認者	村手 基



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =0.7

★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B-:★★ C:★

環境品質 G

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超:★

標準計算

項目	建設	使用・更新・解体	運用	オフサイト	オフサイト
①参照値	100%				
②建築物の取組み	82%				
③上記+②以外の	82%				
④上記+	82%				

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR3 敷地外環境

LR2 資源・材料

LR1 エネルギー

Q1 室内環境

2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.6**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 2.8**

項目	スコア
音環境	1.0
温熱環境	2.8
光・視環境	3.0
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 3.1**

項目	スコア
機能性	3.0
耐用性	2.7
対応性	3.7

Q3 室外環境（敷地内） **Q3のスコア = 1.9**

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	1.9

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 2.6**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 2.3**

項目	スコア
建物外皮の	1.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.4
効率的	2.0

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 2.7**

項目	スコア
水資源	3.4
非再生材料の	2.7
汚染物質	2.3

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 2.9**

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	2.4
周辺環境への配慮	2.7

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	1.0
	
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	25.7 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0
	
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$
$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$


CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
カインズ岡崎美合店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階									
		独自基準				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分			
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質											2.6
Q1 室内環境							0.40			-	2.8
1 音環境					0.1	1.0	0.15	-	-	-	1.0
1.1 室内騒音レベル					3.0	1.0	0.40		3.0	-	
1.2 遮音					0.4	1.0	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能					-	1.0	0.98		3.0	-	
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.02		3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	-		3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	-		3.0	-	
1.3 吸音					-	1.0	0.20		3.0	-	
2 温熱環境					0.3	2.8	0.35	-	-	-	2.8
2.1 室温制御					0.5	2.6	0.50	-	-	-	
1 室温					3.0	3.0	0.49		3.0	-	
2 外皮性能					3.0	1.0	0.17		3.0	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	3.0	0.34		-	-	
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.20		3.0	-	
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.30		3.0	-	
3 光・視環境					0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
3.1 昼光利用					0.4	3.0	0.49	-	-	-	
1 昼光率					3.0	3.0	0.03		3.0	-	
2 方位別開口					-	-	-		3.0	-	
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.97		3.0	-	
3.2 グレア対策					-	3.0	0.01	-	-	-	
1 昼光制御					5.0	3.0	1.00		3.0	-	
3.3 照度					3.0	3.0	0.01		3.0	-	
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.49		3.0	-	
4 空気質環境					0.2	3.8	0.25	-	-	-	3.8
4.1 発生源対策					0.5	5.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質				建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆建材をほぼ全面に使用	3.0	5.0	1.00		3.0	-	
4.2 換気					0.3	3.9	0.30	-	-	-	
1 換気量					3.0	3.0	0.49		3.0	-	
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.02		3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				空気取り入れ口を汚染源のない方向に設け、かつ各種排気口と異なる方位に6m以上離して配置	3.0	5.0	0.49		3.0	-	
4.3 運用管理					0.2	1.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	1.0	0.50		-	-	
2 喫煙の制御					3.0	1.0	0.50		-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	-	3.1
1 機能性					0.4	3.0	0.40	-	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性					3.0	3.0	0.02		3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	3.0	0.02		3.0	-	
3 バリアフリー計画		独自			3.0	3.0	0.97		-	-	
1.2 心理性・快適性					0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				売場の天井高さを3.6m以上確保	3.0	5.0	0.33		3.0	-	
2 リフレッシュスペース					3.0	3.0	0.33		-	-	
3 内装計画					3.0	1.0	0.33		-	-	
1.3 維持管理					0.3	3.0	0.30		-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保					-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性					0.3	2.7	0.31	-	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.0	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②		-	3.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	3.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性					0.1	1.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備					3.0	1.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	1.0	0.20		-	-	
3 電気設備			②		3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備					3.0	1.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性					0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上確保		-	5.0	0.60	3.0	-			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1		3.0	5.0	0.40	3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	3.0	-			
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性	配線ラックを用いる 配線ラックを用いる		-	2.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	1.9	
1 生物環境の保全と創出				独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				独自④	-	1.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	2.6
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	2.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=1.15	3.0	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.78	3.0	3.4	0.31	-	-	-	3.4
4 効率的運用					0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価					1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	2.7
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				省水型機器、自動水栓機器を用いる	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	4.0	0.24	-	-	-	
内装材をLGS下地とし、躯体を損傷させずに改修が可能											
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	2.3	0.22	-	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	2.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	1.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2排出率82%	-	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減				独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制				独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音				独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
2 振動				独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭					-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	1.6	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	1.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
カインズ岡崎美合店

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:25.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 カインズ岡崎美合店

計画上の配慮事項	
総合	名鉄美合駅より西に1.1kmほどに位置し、かつてスーパーマーケット及び住宅展示場の跡地を造成しホームセンターを建設する。 岡崎市の特定制業手続き条例の規制に基づき敷地周囲に4mの緩衝緑地を設けた
Q1 室内環境	・建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆建材をほぼ全面に使用 ・空気取り入れ口を汚染源のない方向に設け、かつ各種排気口と異なる方位に6m以上離して配置
Q2 サービス性能	・売場の天井高さを3.6m以上確保 ・階高3.9m以上確保 ・壁長さ比率<0.1 ・電力配線・通信に配管ラックを使用
Q3 室外環境(敷地内)	・外構緑化指数を25.7%確保
LR1 エネルギー	・建物の各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し消費原単位等を用いてベンチマーク比較を行えるようにする
LR2 資源・マテリアル	・省水型機器、自動水栓機器を用いる ・内装材をLGS下地とし、躯体を損傷させずに改修が可能
LR3 敷地外環境	・ライフサイクルCO2排出率85% ・適切な量の自転車置場、駐車場を設置し管理車両用の駐車施設も設置している ・光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。